

概況調査結果概要

1 調査内容

(1)文献及びヒアリング調査

漂流・漂着ゴミに関する特性を、「ゴミに関する特性」と「漂着場の特性」の2つに大別し、それぞれに関係する要素について調査するため、既存データ及び情報の収集・整理、関係部局及び関係組織へのヒアリングを行っている。調査項目を表 1に示す。

(2)航空機調査

ゴミの漂着状況を確認するため、対馬市の海岸線を対象として航空機より写真撮影を行った。撮影高度は約 350m で、20～30cm 以上のゴミの識別が可能である。撮影した写真を用いて海岸線方向に 10m あたりの漂着ゴミ(20～30cm 以上)の量をゴミ袋(20L)換算で「8 袋以上」、「1 袋以上 8 袋未満」、「1 袋未満」の 3 段階で評価し、地図上に表現した。

2 調査対象地域

- ・対馬全域

3 調査結果概要

3.1 文献及びヒアリング調査

3.1.1 ゴミに関する特性

(1)過去の漂着ゴミの実態調査

調査対象地域において、過去 5 年程度の期間中における漂流・漂着ゴミに係る清掃活動（クリーンアップ活動）もしくは調査事例について収集・整理した結果を表 2に示す。4 件の事例が確認できている。

(2)漂着ゴミの回収処分体制の状況

調査対象地域を含む県内において漂流・漂着ゴミに係る回収処分を行う事業等の事例について、現在、収集・整理した情報を表 3に示す。3 件の事例が確認できている。

3.1.2 漂着場の特性

漂流・漂着ゴミが流れ着く海岸線に固有な特性として、「漂着のメカニズムに関する条件」、「海岸の価値」及び「社会条件」の3つの視点から地域の特性について、収集・整理した情報を表 4と表 5の(1)に示す。

表 1 漂流・漂着ゴミに関する要素と必要な情報

大項目	中項目	小項目	細目	必要な情報		
ゴミに関する特性	実態調査	調査主体、組織	連携体制	主催者、参加者、市町村、NGO、ボランティアの役割		
			各種手配	地元住民、漁業者との協力関係		
		調査方法		必要資材の品目、調達方法、費用		
		調査結果	ゴムの総量及び種類別量	重量、容量、重量/面積(距離)等		
			発生源	国内、国外		
		処分・処理方法	リサイクル	リサイクルの有無と方法		
			現地処理	埋設、焼却、減容処理、その他		
			現地外処理	輸送方法(車両、船舶) 処分方法(焼却、埋設、その他)		
	その他	実施時における環境配慮	植生、昆虫などに対する保全対策			
	漂着ゴミの回収・処分体制	処分事業計画		処分事業計画の有無		
		清掃、回収、運搬、処分等に関する活動	連携体制	海岸管理者、市町村、NGO等、ボランティア、河川管理者、漁業者などの役割		
			各種手配	必要資材の品目、調達方法、費用		
		回収方法 処分・処理方法	回収方法	人力、機械など		
			リサイクルの実施と方法	現地処理(埋設、焼却、減容処理など)		
現地外処理(受入可能施設)						
その他	活動時における環境配慮	植生、昆虫などに対する保全対策				
漂着場の特性	漂着のメカニズムに関する条件	流況		海流、潮汐流、沿岸流、海浜流		
		潮位差		潮位		
		波浪		波高、波向		
		風況		風速、風向		
		地形	自然海岸		砂浜、干潟、岩礁	
			人工海岸		直立護岸、防災構造物、人工海浜	
			海岸線の形状		海岸の勾配 入り組み度、湾の向き	
		河川	河口		河口の位置 河口からの距離 河川流量	
		海岸の価値	自然的価値	貴重な生物		ウミガメの産卵場、貴重種、植生など
				貴重な地形、地質		鳴き砂、星の砂など
	国立公園等				国立公園等の有無	
	歴史・文化的価値		景観		景勝地	
			歴史・文化的遺産		神社など	
	アメニティ		自然とのふれあい、親水性		レジャー、散策など	
			文化、伝統		祭りなど	
			観光資源		観光資源の有無	
	社会条件	海岸利用	レクリエーション		海水浴、潮干狩り、釣り、マリンスポーツなど	
			港湾区域		港湾の位置	
			漁港		漁港の位置	
		河川利用	防災(津波、高潮)施設		防災施設の位置	
			流域人口		流域人口 流域市町村のゴミ処理量	
		管理			海岸管理者、河川管理者	
漂着状況の確認	航空機調査		航空写真	調査範囲のゴミの漂着状況との比較		

表 2(1) 海岸漂着ゴミの清掃活動に関する事例調査

- 1 長崎県対馬市上県町 越高海岸	
【清掃活動実施日】 平成 16 年～18 年	【実施場所及び範囲】 長崎県
【活動の名称】 県下一斉浜そうじ	【主催者及び後援者】 長崎県海と渚環境美化推進委員会
【参加団体及び人数】 不明	【回収されたゴミの量】 H16 年度 約 1,386 t (対馬 289 t 21%) H17 年度 約 1,496 t (対馬 714 t 48%) H18 年度 約 1,117 t (対馬 374 t 33%)

漂着ゴミの実態	実施体制の実態
回収ゴミ総容量： 回収ゴミ総重量： 回収作業の範囲： 回収ゴミの内訳： 1.プラスチック類； 2.ゴミ類； 3.発砲スチレン類； 4.紙類； 5.布類； 6.ガラス陶磁器類； 7.金属類； 8.その他の人工物； 9.その他（自然物）； 発生源の内訳： 1.国内； 2.国外；	作業に要する連携体制： 1.市町村の関与； 2.民間団体の関与； 3.民間企業の関与； 4.ボランティアの関与； 5.地元住民の関与； 6.地元学生の関与； 7.漁業者の関与； 8.その他； 回収に要する資材の手配： 1.資材品目； 2.調達方法； 3.調達先； 4.手配者； 5.経費負担； 回収に要する機材の手配： 1.機械品目； 2.調達方法； 3.調達先； 4.手配者； 5.経費負担； 回収に要する人材の手配： 1.役割分担； 2.作業主体； 3.募集方法； 4.手配者； 5.経費負担；
ゴミ処理の実態 現地処理量： 1.焼却； 2.埋設； 3.再利用； 4.減容化； 現地外処理量： 1.搬出先； 2.搬出方法； 3.搬出量； 4.処理方法；	
環境配慮事項：	

- 1 長崎県対馬市上県町
越高海岸

【清掃活動の概要】

情報出典：「漂流・漂着ゴミ対策に関する関係省庁会議とりまとめ」（平成19年3月）
「長崎県の漂流・漂着ゴミ対策について」（平成19年8月、長崎県資料）

表 2(2) 海岸漂着ゴミの清掃活動に関する事例調査

- 1 長崎県対馬市上県町 越高海岸	
【清掃活動実施日】 平成 18 年 5 月 20 日	【実施場所及び範囲】 長崎県対馬市廻海岸
【活動の名称】 漂着ゴミ調査（平成 18 年度）	【主催者及び後援者】 海上保安庁第七管区海上保安本部 比田勝保安署
【参加団体及び人数】 釜山外国語大学校及びボランティア (240)	【回収されたゴミの量】 回収量：10,000kg

漂着ゴミの実態	実施体制の実態
回収ゴミ総容量： 回収ゴミ総重量：10,000kg 回収作業の範囲： 回収ゴミの内訳： 1. プラスチック類； 49.7% 2. ゴム類； 0.3% 3. 発砲スチレン類； 24.7% 4. 紙類； 5.7% 5. 布類； 6. ガラス陶磁器類； 3.7% 7. 金属類； 2.6% 8. その他の人工物；12.7% 9. その他（自然物）；木；0.5% 発生源の内訳： 1. 国内； 2. 国外；	作業に要する連携体制： 1. 市町村の関与； 2. 民間団体の関与； 3. 民間企業の関与； 4. ボランティアの関与； 5. 地元住民の関与； 6. 地元学生の関与； 7. 漁業者の関与； 8. その他； 回収に要する資材の手配： 1. 資材品目； 2. 調達方法； 3. 調達先； 4. 手配者； 5. 経費負担； 回収に要する機材の手配： 1. 機材品目； 2. 調達方法； 3. 調達先； 4. 手配者； 5. 経費負担； 回収に要する人材の手配： 1. 役割分担； 2. 作業主体； 3. 募集方法； 4. 手配者； 5. 経費負担；
ゴミ処理の実態 現地処理量： 1. 焼却； 2. 埋設； 3. 再利用； 4. 減容化； 現地外処理量： 1. 搬出先； 2. 搬出方法； 3. 搬出量； 4. 処理方法；	
環境配慮事項：	

【清掃活動の概要】

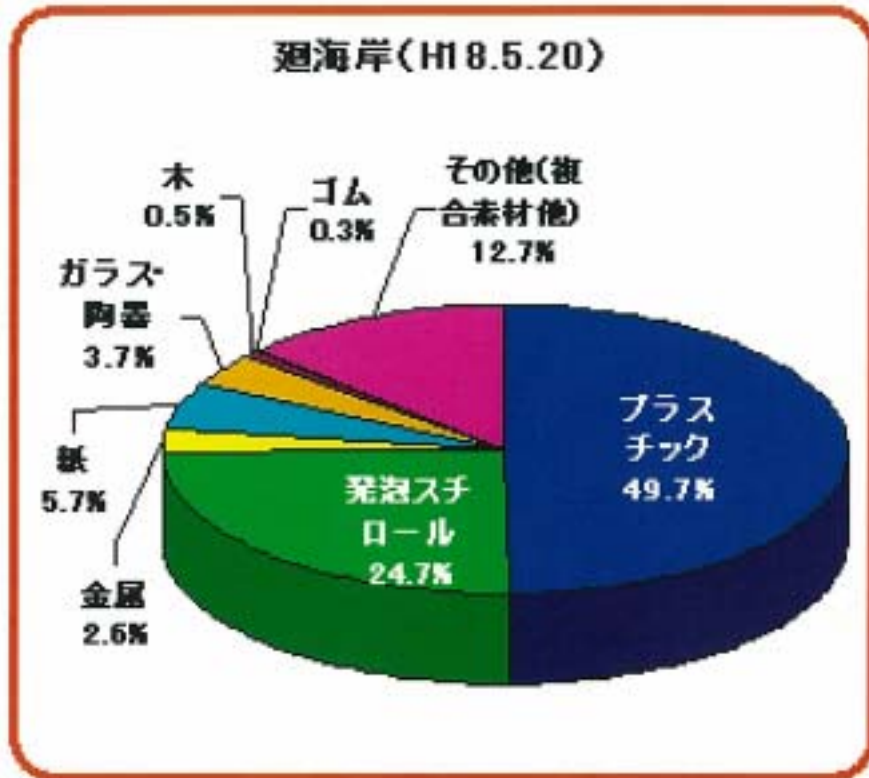


表 2(3) 海岸漂着ゴミの清掃活動に関する事例調査

- 2 長崎県対馬市上県町 志多留海岸	
【清掃活動実施日】 平成 17 年 6 月 25 日、6 月 26 日	【実施場所及び範囲】 対馬市上県町サス浜北側海岸
【活動の名称】 クリーンアップキャンペーン	【主催者及び後援者】 J E A N/クリーンアップ全国事務局が全国活動を集計 (後援：環境省・水産庁・海上保安庁・国土交通省)
【参加団体及び人数】 釜山外国語大学校(100, 101)	【回収されたゴミの量】 不明

漂着ゴミの実態	実施体制の実態
回収ゴミ総容量： 回収ゴミ総重量： 回収作業の範囲： 回収ゴミの内訳： 1. プラスチック類； 2. ゴム類； 3. 発砲スチレン類； 4. 紙類； 5. 布類； 6. ガラス陶磁器類； 7. 金属類； 8. その他の人工物； 9. その他（自然物）； 発生源の内訳： 1. 国内； 2. 国外；	作業に要する連携体制： 1. 市町村の関与； 2. 民間団体の関与； 3. 民間企業の関与； 4. ボランティアの関与； 5. 地元住民の関与； 6. 地元学生の関与； 7. 漁業者の関与； 8. その他； 回収に要する資材の手配： 1. 資材品目； 2. 調達方法； 3. 調達先； 4. 手配者； 5. 経費負担； 回収に要する機材の手配： 1. 機械品目； 2. 調達方法； 3. 調達先； 4. 手配者； 5. 経費負担； 回収に要する人材の手配： 1. 役割分担； 2. 作業主体； 3. 募集方法； 4. 手配者； 5. 経費負担；
ゴミ処理の実態 現地処理量： 1. 焼却； 2. 埋設； 3. 再利用； 4. 減容化； 現地外処理量： 1. 搬出先； 2. 搬出方法； 3. 搬出量； 4. 処理方法；	
環境配慮事項：	

- 2 長崎県対馬市上県町
志多留海岸

【清掃活動の概要】

情報出典：「クリーンアップキャンペーンREPORT」（JEAN/クリーンアップ全国事務局）

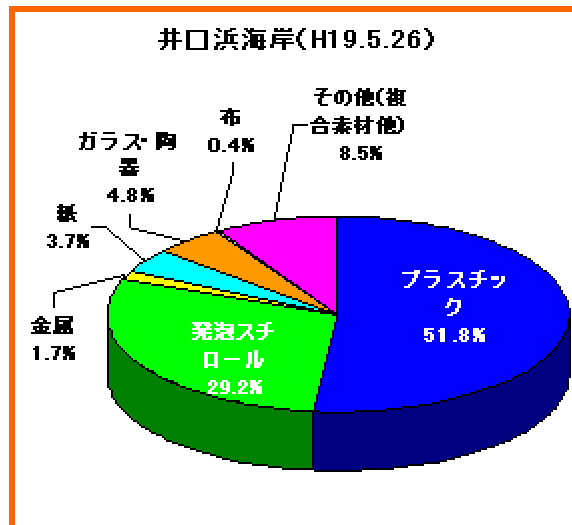
表 2(4) 海岸漂着ゴミの清掃活動に関する事例調査

- 2 長崎県対馬市上県町 志多留海岸	
【清掃活動実施日】 平成 19 年 5 月 26 日	【実施場所及び範囲】 対馬市上県町井口浜海岸
【活動の名称】 漂着ゴミ調査（平成 19 年度）	【主催者及び後援者】 海上保安庁第七管区海上保安本部
【参加団体及び人数】 釜山外国語大学校(100)	【回収されたゴミの量】 回収量：30,000kg

漂着ゴミの実態	実施体制の実態
回収ゴミ総容量： 回収ゴミ総重量：30,000kg 回収作業の範囲： 回収ゴミの内訳： 1. プラスチック類；51.8% 2. ゴム類； 3. 発砲スチレン類；29.2% 4. 紙類；3.7% 5. 布類；0.4% 6. ガラス陶磁器類；4.8% 7. 金属類；1.7% 8. その他の人工物；8.5% 9. その他（自然物）； 発生源の内訳： 1. 国内； 2. 国外；	作業に要する連携体制： 1. 市町村の関与； 2. 民間団体の関与； 3. 民間企業の関与； 4. ボランティアの関与； 5. 地元住民の関与； 6. 地元学生の関与； 7. 漁業者の関与； 8. その他； 回収に要する資材の手配： 1. 資材品目； 2. 調達方法； 3. 調達先； 4. 手配者； 5. 経費負担； 回収に要する機材の手配： 1. 機械品目； 2. 調達方法； 3. 調達先； 4. 手配者； 5. 経費負担； 回収に要する人材の手配： 1. 役割分担； 2. 作業主体； 3. 募集方法； 4. 手配者； 5. 経費負担；
ゴミ処理の実態 現地処理量： 1. 焼却； 2. 埋設； 3. 再利用； 4. 減容化； 現地外処理量： 1. 搬出先； 2. 搬出方法； 3. 搬出量； 4. 処理方法；	
環境配慮事項：	

- 2 長崎県対馬市上県町
志多留海岸

【清掃活動の概要】



情報出典：「第七管区海上保安本部ホームページ 海洋環境保全コーナー 平成19年海洋環境保全推進月間の実施結果」

表 3(1) 海岸漂着ゴミの回収処分事業に関する事例調査

長崎県対馬市	
事業・調査・計画の名称	市町が行う漂流・漂着ゴミ撤去事業経費の助成(平成14年度～)
行政主管官庁	長崎県廃棄物・リサイクル対策課
事業実施主体	市町
計上予算額	19,120千円(平成19年度予算)
内容	離島振興法指定地域かつ事業費4百万円以上は、その10分の7以内(420万を限度)、それ以外は2分の1以内(150万を限度)に事業経費を助成している。

事業に係る役割分担	回収作業に係る役割分担
対象事業：漂流・漂着ごみの撤去、運搬、処分	
資材・機材・人材に係る役割分担	ゴミの処理・処分に係る役割分担
環境配慮事項：	

長崎県対馬市

【回収処理事業の概要】

情報出典：「漂流・漂着ゴミ対策に関する関係省庁会議とりまとめ」（平成19年3月）
「長崎県の漂流・漂着ゴミ対策について」（平成19年8月、長崎県資料）

表 3(2) 海岸漂着ゴミの回収処分事業に関する事例調査

長崎県対馬市	
事業・調査・計画の名称	平成 18 年度流木特別対策
行政主管官庁	長崎県廃棄物・リサイクル対策課
事業実施主体	11 市 3 町
計上予算額	138 百万円 (決算額)
内容	①災害廃棄物処理事業費国庫補助金 (環境省) の活用 ②市町支援 (県補助金による支援)

事業に係る役割分担	回収作業に係る役割分担
対象事業：漂着流木の撤去経費及び回収・撤去した流木の運搬・処分に要する経費の補助	
資材・機材・人材に係る役割分担	ゴミの処理・処分に係る役割分担
環境配慮事項：	

長崎県対馬市

【回収処理事業の概要】

- | | |
|----------------|-----------------------------|
| (1) 流木の漂流・漂着本数 | 本数：77,909本 |
| (2) 市町の処理事業量 | 事業量：約 11,082 m ³ |

情報出典：「長崎県の漂流・漂着ごみ対策について」（平成19年8月、長崎県資料）

表 3(3) 海岸漂着ゴミの回収処分事業に関する事例調査

長崎県対馬市	
事業・調査・計画の名称	不法投棄物撤去事業
行政主管官庁	長崎県対馬市
事業実施主体	対馬市+釜山外国語大学校学生、住民ボランティア
計上予算額	H13 : 1,221 千円 H14 : 3,067 千円 H15 : 4,682 千円 H16 : 5,390 千円 H17 : 9,109 千円
内容	漂着ごみの撤去・回収

事業に係る役割分担	回収作業に係る役割分担
県の補助金を活用した事業	平成 15～17 年度は釜山外国語大学学生とのボランティアによる海岸清掃を行う 参加延べ人数 () 内は学生数 H13 : 200 人 H14 : 400 人 H15 : 410(160) 人 H16 : 780(260) 人 H17 : 850(240) 人
資材・機材・人材に係る役割分担	ゴミの処理・処分に係る役割分担
	処理経費 H15 : (2,560 千円) H16 : (3,560 千円) H17 : (4,872 千円)
環境配慮事項 :	



長崎県対馬市

【回収処理事業の概要】

年度	事業名	参加延べ人数	回収量	事業費(千円)
13	不法投棄物撤去事業	200人	ポリ容器 6,000個	1,221
14	不法投棄物撤去事業	400人	ポリ容器 4,350個	3,067
15	釜山外国語大学校学生との ボランティアによる海岸清掃 (不法投棄物撤去事業)	410人 学生160人 一般250人	漁業用フロート、 ポリ容器、家電製 品等300㎡	4,682 うち処理経費 (2,560)
16	釜山外国語大学校学生との ボランティアによる海岸清掃 (不法投棄物撤去事業)	780人 学生260人 一般520人	漁業用フロート、 ポリ容器、家電製 品等510㎡	5,390 うち処理経費 (3,560)
17	・漂流・漂着ゴミ撤去事業 ・漁業公害対策事業	島内13箇所	漁業用フロート、 ポリ容器、家電製 品等720㎡	6,000 うち処理経費 (5,532)
	釜山外国語大学校学生との ボランティアによる海岸清掃	850人 学生240人 一般610人	漁業用フロート、 ポリ容器、家電製 品等650㎡	9,109 うち処理経費 (4,872)
18	第1回日韓学生つしま会議 ～漂着ごみを拾う・考える～ (漂流漂着ゴミ撤去事業)	659人 学生451人 一般208人	漁業用フロート、 ポリ容器、家電製 品等230㎡	6,000 うち処理経費 (2,000)

情報出典：「対馬市における漂着ごみの現状と対策」（平成19年2月、漂流・漂着物対策特別委員会資料）

表 4(1) 漂着場の特性 (越高海岸)

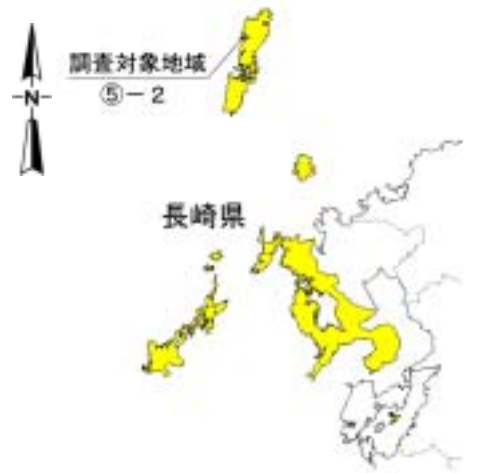

調査対象地域： - 1 長崎県対馬市上県町越高海岸		経緯度：129° 19′ 26″ E 34° 33′ 02″ N				
概況調査範囲を含む当該県情報：長崎県		モデル地域を含む当該市町情報：対馬市				
 <p>【長崎県庁】 ○所在地：長崎市江戸町 2-13 〒850-8570 ○経緯度：129° 52′ 25″ E 32° 44′ 41″ N ○連絡先：095-824-1111 (代表)</p> <p>○総面積：4,094.76km² ○宅地面積：19,173ha ○人口：1,478,632人 (男 691,444 女 787,188) ○人口密度：361.1人/km² ○世帯数：553,620世帯 ○平均気温：16.9℃ ○平均湿度：71% ○年降水量：1,959.6mm ○平均風速：2.2m/s ○海岸延長：4,177.26km (自然海岸 2,903.48km) ○一級河川：1水系 ○二級河川：222水系 ○ごみ排出量：570,662t/年</p>		 <p>【対馬市役所】 ○所在地：対馬市厳原町国分 1441 番地 〒817-0022 ○経緯度：129° 17′ 15″ E 34° 12′ 09″ N ○連絡先：0920-53-6111 (代表)</p> <p>○総面積：708.66km² ○宅地面積：572ha ○人口：38,481人 (男 18,678 女 19,803) ○人口密度：54.3人/km² ○世帯数：14,710世帯 ○平均気温：15.5℃ ○平均湿度：71% ○年降水量：2,132.6mm ○平均風速：3.0m/s ○海岸延長：883.82km (自然海岸 750.43km) ○一級河川：- ○二級河川：38水系 ○ごみ排出量：12,688t/年</p>				
漂着のメカニズムに関する条件	流況 【129° E-32° N】	平均流速 (ノット) 最大流速 (ノット) 平均流向 (度)	1月 0.2	4月 0.1	7月 0.1	10月 0.1
	潮位差 【長崎】 TP. -272cm	月平均潮位 (cm) 月最高潮位 (cm) 月最低潮位 (cm)	1月 278.2	4月 285.3	7月 305.3	10月 307.8
	波浪 【 - 】	最大有義波高 (m) 平均有義波高 (m) 最高波高 (m)	1月	4月	7月	10月
	風況 【長崎海洋】	平均風速 (m/s) 最多風向 (-) 最大風速風向 (m/s・-)	1月 2.3 N 21.1・SSE	4月 2.4 N 26.9・SE	7月 2.4 SW 30.7・SW	10月 1.9 NE 22.5・NNE
	海岸地形 【長崎県】	自然海岸 (km) 半自然海岸 (km) 人工海岸 (km)	2,903.48 (泥浜127.64 砂質164.68 岩石889.06 他 1,722.10) 573.08 (泥浜103.92 砂質157.67 岩石152.34 他 159.75) 698.32 (埋立432.57 干拓 14.66 他 251.09)			
	代表河川 【本明川】	幹川流路延長 (km) 流域面積 (km ²) 流量 (m ³ /s)	21.0 87.0 (流域内人口約 5.5 万人) 豊水 1.70 平水 1.03 低水 0.74			
海岸の価値	自然的価値	藻場干潟等分布 貴重な生物分布 自然公園等分布				
	歴史・文化的価値	史跡・名勝・天然記念物 自然景観資源 指定文化財				
	アメニティ	自然との触れ合い活動 観光資源・行事 海岸レクリエーション				
社会条件	海岸利用	護岸・構造物・海浜 港湾・漁港 産業施設等				
	河川利用	一級河川・二級河川 流域人口				
	地域管理	港湾区域 漁港区域 海岸保全区域				

○特記事項：

表 4(2) 漂着場の特性 (越高海岸)

調査対象地域： - 1 長崎県対馬市上県町越高海岸		経緯度：129° 19' 26" E 34° 33' 02" N	
〔撮影日：2007年9月26日、27日〕			
海岸の価値		社会条件	
自然的価値	モデル地域海岸	海岸利用	モデル地域海岸
	近傍海岸		近傍海岸
歴史・文化的価値	モデル地域海岸	河川利用	モデル地域海岸
	近傍海岸		近傍海岸
アメニティ	モデル地域海岸	地域管理	モデル地域海岸
	近傍海岸		近傍海岸
<p>老岐対馬国定公園 国指定天然記念物：御嶽鳥類繁殖地</p> <p>町指定史跡：越高遺跡 遺物包含地：越高浜遺跡</p> <p>志多留風景</p> <p>湊浜海水浴場 井口浜海水浴場</p>		<p>越高漁港（越高）（第一種） a 越高漁港（御園）（第一種） b 仁田港（地方港湾） c</p> <p>漁港海岸保全区域：越高漁港 a, b 対馬クリーンセンター： 処理能力；焼却 28t/日 資源化 21t/日 最終処分場 2017年度埋立終了 対馬市一般廃棄物最終処分場： 処理能力；2010年度埋立終了</p>	
<p>情報出典：「上県町の文化財・史跡」（上県町、平成4年）、「対馬観光案内ガイドブック」（対馬観光物産協会）、「平成10年度事業概要」（対馬支庁）、「長崎県対馬地方局総合管内図」（長崎県、平成17年）</p>			

表 5(1) 漂着場特性 (志多留海岸)

調査対象地域： - 2 長崎県対馬市上県町志多留海岸		経緯度：129° 18' 20" E 34° 34' 05" N				
概況調査範囲を含む当該県情報：長崎県		モデル地域を含む当該市町情報：対馬市				
 <p>【長崎県庁】 ○所在地：長崎市江戸町 2-13 〒850-8570 ○経緯度：129° 52' 25" E 32° 44' 41" N ○連絡先：095-824-1111 (代表)</p> <p>○総面積：4,094.76km² ○宅地面積：19,173ha ○人口：1,478,632人 (男 691,444 女 787,188) ○人口密度：361.1人/km² ○世帯数：553,620世帯 ○平均気温：16.9℃ ○平均湿度：71% ○年降水量：1,959.6mm ○平均風速：2.2m/s ○海岸延長：4,177.26km (自然海岸 2,903.48km) ○一級河川：1水系 ○二級河川：222水系 ○ごみ排出量：570,662t/年</p>		 <p>【対馬市役所】 ○所在地：対馬市厳原町区分 1441 番地 〒817-0022 ○経緯度：129° 17' 15" E 34° 12' 09" N ○連絡先：0920-53-6111 (代表)</p> <p>○総面積：708.66km² ○宅地面積：572ha ○人口：38,481人 (男 18,678 女 19,803) ○人口密度：54.3人/km² ○世帯数：14,710世帯 ○平均気温：15.5℃ ○平均湿度：71% ○年降水量：2,132.6mm ○平均風速：3.0m/s ○海岸延長：883.82km (自然海岸 750.43km) ○一級河川：- ○二級河川：38水系 ○ごみ排出量：12,688t/年</p>				
漂着のメカニズムに関する条件	流況 【129° E-32° N】	平均流速 (ノット) 最大流速 (ノット) 平均流向 (度)	1月 0.2 2.1 159	4月 0.1 1.2 116	7月 0.1 2.4 165	10月 0.1 2.5 140
	潮位差 【長崎】 TP. -272cm	月平均潮位 (cm) 月最高潮位 (cm) 月最低潮位 (cm)	1月 278.2 425 87	4月 285.3 423 113	7月 305.3 431 132	10月 307.8 456 130
	波浪 【 - 】	最大有義波高 (m) 平均有義波高 (m) 最高波高 (m)	1月	4月	7月	10月
	風況 【長崎海洋】	平均風速 (m/s) 最多風向 (-) 最大風速風向 (m/s・-)	1月 2.3 N 21.1・SSE	4月 2.4 N 26.9・SE	7月 2.4 SW 30.7・SW	10月 1.9 NE 22.5・NNE
	海岸地形 【長崎県】	自然海岸 (km) 半自然海岸 (km) 人工海岸 (km)	2,903.48 (泥浜127.64 砂質164.68 岩石889.06 他1,722.10) 573.08 (泥浜103.92 砂質157.67 岩石152.34 他159.75) 698.32 (埋立432.57 干拓14.66 他251.09)			
	代表河川 【本明川】	幹川流路延長 (km) 流域面積 (km ²) 流量 (m ³ /s)	21.0 87.0 (流域内人口約5.5万人) 豊水1.70 平水1.03 低水0.74			
	自然価値	藻場干潟等分布 貴重な生物分布 自然公園等分布				
歴史・文化的価値	史跡・名勝・天然記念物 自然景観資源 指定文化財					
アメニティ	自然との触れ合い活動 観光資源・行事 海岸レクリエーション					
社会条件	海岸利用	護岸・構造物・海浜 港湾・漁港 産業施設等				
	河川利用	一級河川・二級河川 流域人口				
	地域管理	港湾区域 漁港区域 海岸保全区域				

○特記事項：

表 5(2) 漂着場の特徴 (志多留海岸)

調査対象地域： - 2 長崎県対馬市上県町志多留海岸		経緯度：129° 18′ 20″ E 34° 34′ 05″ N	
〔撮影日：2007年9月26日、27日〕			
海岸の価値		社会条件	
自然的価値	モデル地域海岸	海岸利用	モデル地域海岸
	近傍海岸		近傍海岸
歴史・文化的価値	町指定史跡：志多留貝塚 遺物包含地：志多留遺跡	河川利用	伊奈漁港（志多留地区）（第四種） a
	志多留風景		
アメニティ	モデル地域海岸	地域管理	モデル地域海岸
	近傍海岸		近傍海岸
	湊浜海水浴場 井口浜海水浴場		漁港海岸保全区域：伊奈漁港 b 対馬クリーンセンター： 処理能力；焼却 28t/日 資源化 21t/日 最終処分場 2017年度埋立終了 対馬市一般廃棄物最終処分場： 処理能力；2010年度埋立終了
情報出典：「上県町の文化財・史跡」（上県町、平成4年）、「対馬観光案内ガイドブック」（対馬観光物産協会）、「平成10年度事業概要」（対馬支庁）、「長崎県対馬地方局総合案内図」（長崎県、平成17年）			

3.2 航空機調査

調査対象海域において航空機から写真撮影を行い、海岸線方向に10mあたりの漂着ゴミ(20~30cm以上)の量を3段階(表6)で評価した。漂着ゴミとしては発泡スチロールやポリタンクなどの人工系のゴミの他、流木も対象とした。海藻については独自調査で回収の対象外としている地域もあるため、航空機調査においても対象外とした。植生内の漂着ゴミについても撮影されている範囲で評価の対象とした。FRP製のボートや和船(木製)については、漂着ゴミかどうかの判定がつかないため対象外とした。

評価結果をクリーンアップ調査の範囲について、ゴミの漂着状況と海岸の価値及び社会条件との位置関係について整理し、表4(2)及び表5(2)に図示する。また、対馬市全域のゴミの漂着状況(速報版)を図1に示す。図1には評価結果を考察する一助として、海岸線の地形情報(浜が発達していない海岸及び人工海岸、ともにゴミが漂着しにくい)を付加した。これらの地形データは第5回海岸線調査(環境省、平成5~10年度)を参照した。

本調査により、陸側から見通しが効かない浜やアクセスが困難な浜についても漂着ゴミの状況を把握することができた。ただし、本調査で評価の対象となっているゴミはその大きさが20~30cm以上のものであり、実際にはそれ以下のゴミも数多く存在することに注意を要する。また、航空機による写真撮影が8月にかけて行われたため、海水浴シーズン前の海岸清掃活動等によって漂着ゴミの回収が行われていることも加味する必要がある。

なお、本調査では把握できない小さな漂着ゴミの状況については、農林水産省、水産庁、国土交通省による「海岸における一体的漂着ゴミ対策検討調査」結果(金子、河川2007-11月号)を参照されたい。

表6 漂着ゴミ(かさ容量)の推測基準

ゴミ袋の数量(目安)	かさ容量(目安)	備考
8袋以上	160L以上	ドラム缶1個程度以上
1以上~8袋未満	20L以上~160L未満	
1袋未満	20L未満	航空写真で識別できるゴミはほとんど見あたらない状態

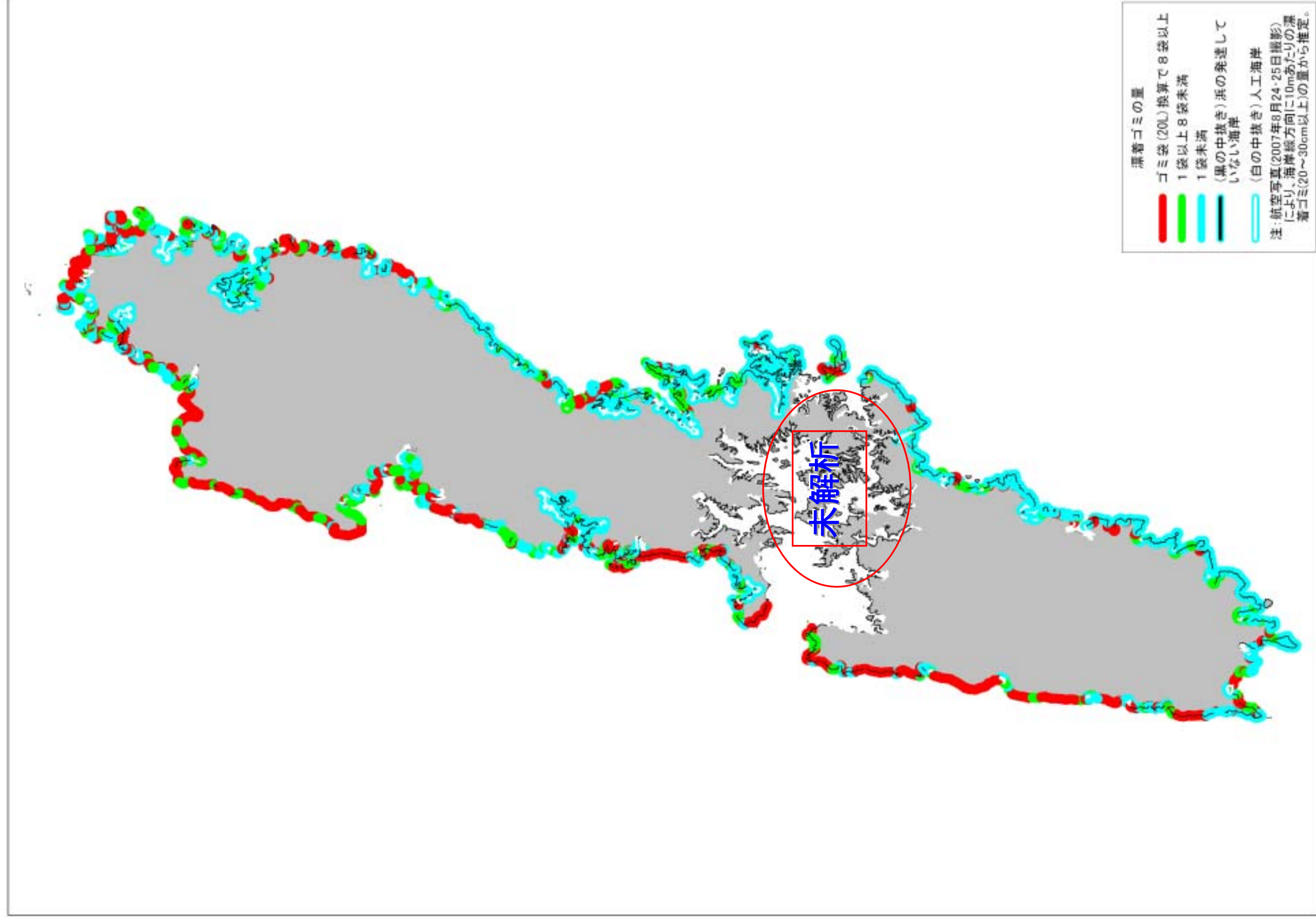


図1 対馬市における漂着ゴミの状況(速報版)

